

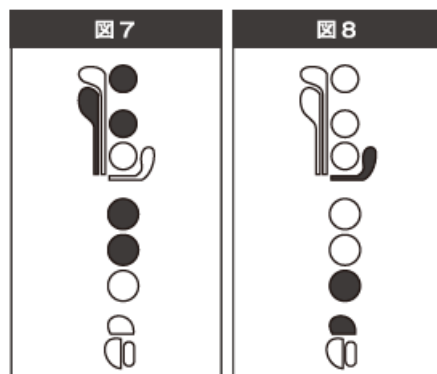


Ⅱ マーチ「エイプリル・リーフ」／近藤 悠介



◆Piccolo

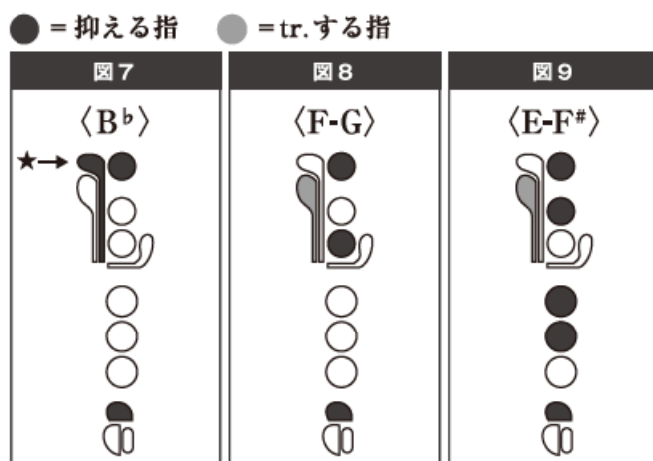
最初の f は目立つので頭のアクセントをしたら軽く吹きましよう。4 小節目の E の音程が高くなる時は図 7 の運指にしてみてください。[B] は mf ですが吹き過ぎない方がバランスが取りやすいです。16 小節目からは指示は mf のままですが、軽くしたい箇所ですし高音域からなので mp か p くらいにしてみてください。17 小節目の E^b-D^b は段差が付きやすいところです。D^b で図 8 の運指にするのもひとつです。66 小節目からのメロディも mf ですが、木管楽器のアンサンブルの上に乗っているように、吹き過ぎず p で軽く吹くくらいが良さそうです。[K] も f の指示になっていますが、軽く mp くらいで吹くとバランスが取りやすいです。tr. は音を張りすぎずに伸ばすと軽く聴こえます。



◆Flute

この曲は細かくどんどんコードが変わっていくので、16 分音符のスケールの中に臨時記号がたくさん出てきて指回しがとても難しいですが、次の展開を頭に入れて、それをイメージして練習しましょう。コードの変化にともなって音楽の色も変化していくので、それを感じながら指の練習をすると頭に入りやすいと思います。決して一本調子にならないように。基本的に b 系の曲は B^b の図 7 のブリッチアルディキーを使うと右手と左手がバタバタしなくて良いでしょう。冒頭 F-G の tr. は図 8 の運指。4 小節目や 32 小節目の形は、1 拍目表を長めテヌートで裏を軽め stacc. 気味で吹き、2 拍目裏のアクセントを意識して吹きましよう。2nd 18 小節目の A^b の連続ですが、1 拍目裏はスラー stacc. なので軽く短めでタンギングし、4 拍目も同じ音なので 4 拍目裏もタンギングしましょう。21 小節目からの 4 小節目間の形は、頭の 16 分音符にしっかり息を乗せてテヌート気味で吹きましよう。78 小節目の E-F[#] の tr. は図 9 の運指で。84、88 小節目の装飾音符は [A] からのメロディと同じ形なので、同じように吹くと良いでしょう。譜面上は装飾音符の次の 8 分音符にア

クセントが付いていますが、実際には装飾音符にアクセントを付け、次の表拍の 8 分音符はテヌート、裏拍の 8 分音符は stacc. 気味に吹くと雰囲気が出ると思います。ちなみにその次の tr. の音はシンコペーションなので、アクセント気味に吹いて、伸ばしている tr. は軽く dim. しましょう。



★ ブリッチアルディキー

◆Oboe

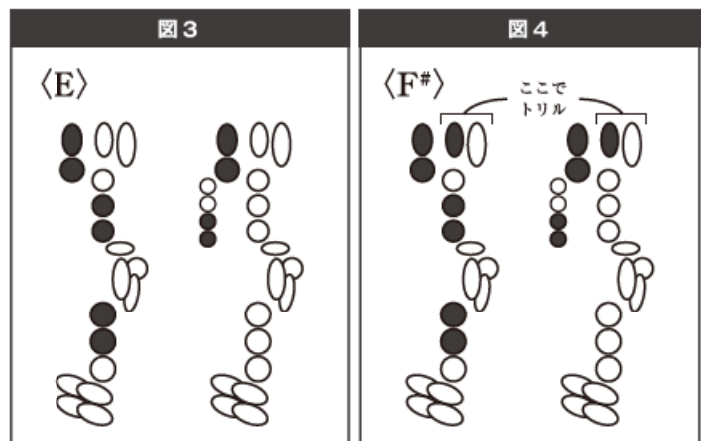
冒頭の tr. は通常 F の運指から右手人差し指のみを上げ下げすることで簡単に出来ます。3 小節目の連符替え指はいくつかパターンがあるかと思いますが in Tempo になっても可能な指を選んで下さい。私は今回 3 拍目 F をフォーク F、E^b を左手小指の替え指、4 拍目 F は左手小指の替え指を使用しました。25 小節目のアウフタクトからも何通りかの運指があります。一例として 3 連符の E^b を通常の運指、[D] の 1、2 拍目を左手小指の F、4 拍目表の E^b を左手小指の替え指という方法を上げておきますが小指を滑らせることが困難な場合は 3 連符の E^b を左手小指の替え指にして [D] の F をフォーク F にします。[I] の tr. も冒頭同様、A^b の運指から左手中指を上下させることで少ない動きで済みます。[L] 以降の連符も中々大変ですね。こちら冒頭と同じく in Tempo になった時でも対応出来る運指を探して下さい。ゆっくりだと出来ても速くなると練習量に関わらず不向きな運指があります。私は 98 小節目 E^b を通常運指、99 小節目は左手 F に、右手人差し指だけを上下させた tr.、102 小節目 F は全てフォーク F を使いました。

◆Bassoon

最初の f はしっかり演奏しますが大きくなり過ぎないように注意しましょう。[A] からは小節内で 1 拍目を大切に 4 拍子感を出しますが、そればかりに意識が行って大きくなり過ぎないように注意しましょう。12 小節目 3 拍目裏からは mf を意識しましょう。8 分音符が短くなり過ぎたり、長くなったりしないように気を付けましょう。音符は簡単ですがフレーズ感をしっかり持って、メロディと一緒に歌っているように意識してみましょ。[C] アウフタクトからは f が 1 つなので気を付けましょ。全部を吹き過ぎずに 22、24 小節目の頂点を意識ましょ。[D] からは Euph. と T.sax. としっかり合わせましょ。mp ですがメロディらしく演奏ましょ。[I] アウフタクトからも f が 1 つなのでしっかりは演奏ましょが大きくなり過ぎないように気を付けましょ。

◆E^b Clarinet

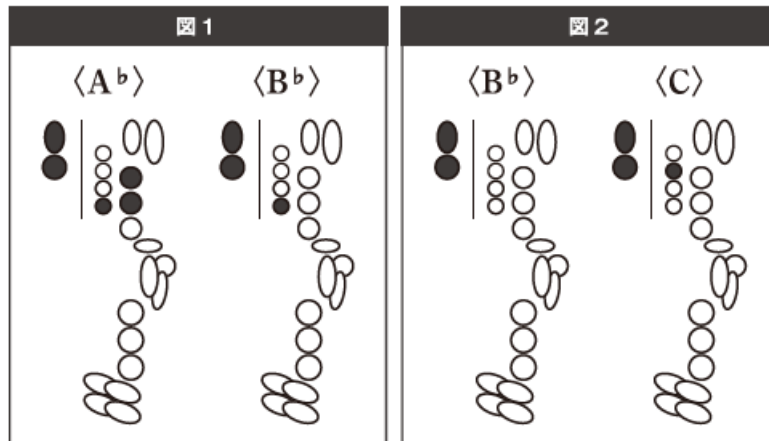
この曲は常に Flute 高音部と同じ動きをしています。飾りの音型が多いので、Flute より出し過ぎず、メロディを聞く余裕を持ちながら演奏するとバランスが良くなりそうです。[C] からは f になっていますが、楽な音量で旋律の邪魔をしないようにしてください。66 小節目からの旋律は mp くらいで楽に吹くようにましょ。70 小節目の G^b は飛び出さないようにコントロールし、音程にも注意が必要です。正規の運指で大丈夫だと思います。77 小節目は技術的に難しいですが、替え指はありません、ゆっくりから丁寧にさらいましょ。指がバタついたり、高く上げ過ぎないように注意ましょ。78 小節目の tr. は図 3、4 の



運指を参考に。全体的に連符が多いので、連符の頭をはっきり出し、後の音は楽に浮かす感覚で練習してみてください。また、8分音符が続くところは前に転ばないようにしましょう。

◆B^b Clarinet

冒頭の tr. は f となっていますが、全体のバランスに気を付けてうるさくならないように注意が必要です。2、3小節目の16分音符は入口を明確にして粒を聞かせましょう。[A]からはメロディ、5小節目のG[#]-Aの運指は滑らかに繋げる意識が大事です。メロディは4小節・4小節で構成されているので、各フレーズの重心(頂点)を明確に統一して演奏してください。[C]からの裏打ちのリズムは重く・うるさくならないように注意しましょう。特に3、4拍目の8分音符が重くなりがちですので注意が必要です。[D]のmpになったメロディは鮮やかに音色・音量をコントロールしましょう。スラーが細かく指示されていますが、少し長くフレーズを取るようにするのがおすすめです。スラーはあくまでも明確な発音を...という程度に考えると上手くいくと思います。[E]から毎小節ごとに現れる16分音符は、リズムを明確に転ばないように演奏してください。Trioからのメロディは劇的な音色・音量の変化を明確に。leggieroとの指示もあるので、滑らかかつ軽やかなメロディに仕上げましょう。メロディは4小節+4小節+8小節というフレーズの構成が恐らく上手くいくように思います。各フレーズの山を明確にだれないように聞かせたいところです。[I]のA^b-B^bのtr.は右手の人差し指は押さえたまま、左手の人差し指と中指を離します(図1)。77小節目からは、アクセントが多く記載されていますが、その中からフレーズの頂点として必要な山を選択して演奏してください。全てにアクセント、となるととても重たく、雑な演奏になってしまうので注意が必要です。[M]B^b-Cのtr.は、右手のサイド・キィの上から2つ目(図2)。



◆E^b Alto Clarinet

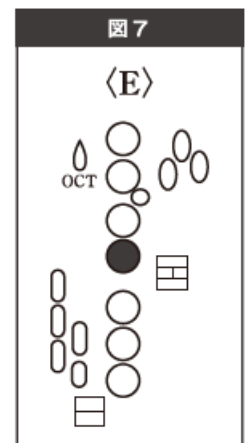
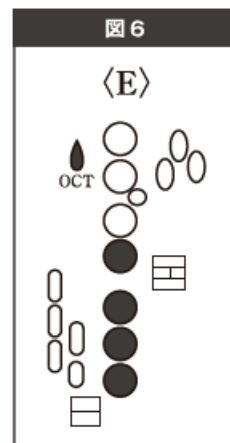
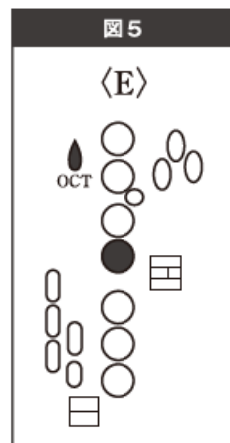
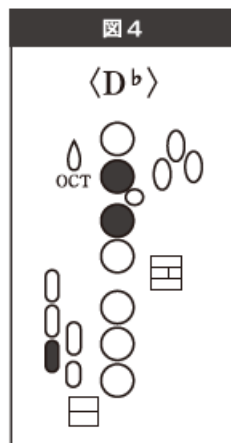
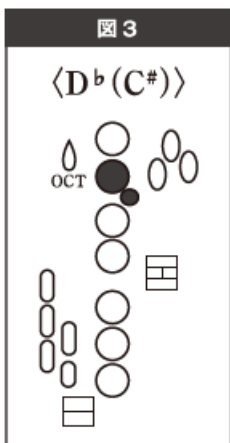
調性の変化が多い曲です。臨時記号に注意しましょう。[H]からの、スラーがかかっていなめらかに演奏したいオブリガードに対して[K]からはmarcatoの表記がありますね。レガートの部分、そして軽快に演奏したい部分、の吹き分けをしっかりとしましょう。4分音符にアクセントの付いた音符は短くなりすぎず響きを大切に。付点のリズムはスラーの後ろ側の音は重くならないように注意しましょう。

◆B^bBass Clarinet

8小節目のように8分音符が連続して並んでいる時、速く吹かないように注意しましょう。[C]のアウトタクトも同じです。しっかり8分音符を感じ、演奏しましょう。[D]からは先程の低音メロディに比べて色が変わります。アタックは強くせず、しかしテンポ感を失わないように吹いてください。[G]からは全体の音量が下がり、伴奏も目立ってきます。しっかり自分の中でテンポ感を持ち演奏しましょう。

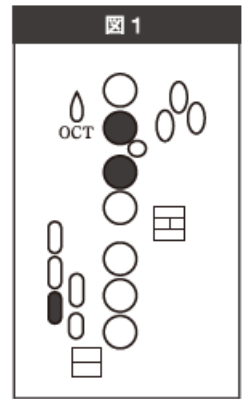
◆E^bAlto Saxophone

まず気になる[A]の装飾音符、さりげなく表現したいですが、運指が意外に難しいので注意が必要です。まず、5小節1拍目最初の装飾音符と、続く1拍目表の8分音符で素早く指を入れ替えられるように運指を確認(これは後に続く音の関係で普通の運指を使うしかありません)した後、前後の音を足して練習すると良いでしょう。アクセントの付いている音の方へ息を狙って入れるようにし、続く1拍目裏の音を軽く演奏するとニュアンスが付けやすくなります。装飾音符がお洒落に表現出来るよう是非工夫してみてください! 2ndの17小節1拍目、1stの18小節4拍目のD^b音は図3の運指を使うと前後にスムーズに繋がられます。この運指は覚えておくと便利です! 2つのキィを人差し指1本で半分ずつに押さえます。これに対し、24小節4拍目や25小節4拍目、27小節4拍目、1stの17小節4拍目のようにC→D^b→E^bと順次進行で動く場合のD^bの運指は、図4の運指を使用すると良いでしょう。音が飛ぶ場合は図3、順次進行は図4と覚えて使い分けられる様にすると良いですが、2ndの29小節1拍目のような場合は注意が必要です。私はスラーを優先し、ここでは図4の運指を使用しています。同じ小節でも、音の飛ぶ3、4拍のD^bは図3の運指です。2ndの35小節4拍目のE音は図5を、1stの40小節3拍目最後のE音は図6を使うと音の繋がりがスムーズです。図5はEの代表的な替え指(この運指は楽器によっては音程が高くなり過ぎてしまう場合があるので、その場合は図7のようにオクターブ・キィを離し薬指1本にします。)図6は前後がFの場合使用すると便利なEの替え指です。全体にスラーの中で続く同音は、軽くソフトに舌を使ってタンギングをしましょう。



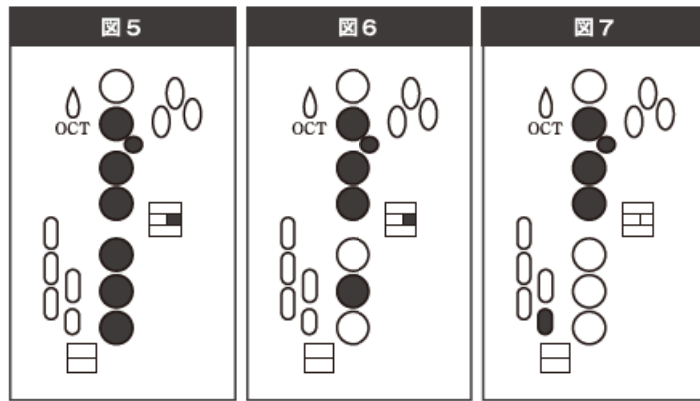
◆B^b Tenor Saxophone

1小節目の2拍目のCの音はSaxophoneの特性上、音程が高くなりやすいので頭の中で音程感をしっかり持ちながら演奏します。3小節目の3拍目裏のA^bの運指は図1のTaキィを使うと音が繋がりやすくなります。[B]からのオブリガードはmfですがほんの少し大きめに存在感のあるように演奏しています。[D]からはmpですが主旋律の音量を越えてしまわないようバランスを気にしながら演奏します。[H]からの旋律も強弱記号はmfとなっていますが、主旋律とのバランスを気にしながら演奏します。[K]からは金管楽器になったつもりで演奏しています。またstacc.の前の16分音符は短く音の処理をします。後半につれてアクセントが多くなっていますが、アクセントはあまり強く演奏しすぎず、少し目立たせて演奏すると良いと思います。



◆E^b Baritone Saxophone

1小節目Fの音程が低くなる時は図5の運指を使いますが、LowC[#]キィを少し押して(半分も押さない)音程の補正をします。24小節目のAの音程が低い場合は図6の運指を使います。105小節目B^bの音程が低い場合は図7の運指を使います。この曲は何処がフレーズの山なのか確かめ、山に向かってどのように進んで行くのか、山からどのように下って行くのかというフレーズ感を持って演奏する事が大切です。旋律に合わせて4小節、または8小節毎に楽譜に斜線などの印を付けておくとより分かり易いです。



◆B^b Trumpet

この曲は1st、2ndの演奏箇所にユニゾンが多いため、音量のバランスを大切にしてください。冒頭のテーマ2小節目の2分音符は少し抜いて演奏します。([I]と[M]も同様です。)17小節目アウフタクトからの旋律は少し音を取りにくいいため、その箇所の和声、音と音の距離間に注意して、ゆっくりなテンポで確実にあてはめるよう練習しましょう。[C]からはスタッカートに着目し過ぎず、休符を感じて、セパレートしながら演奏するような感覚です。[F]の強弱はfですが楽に演奏し、37小節目付近からTrioに向けて、cresc.の準備をします。また、36小節目ではフレーズが途切れないように注意してください。[H]からは木管のサウンドに溶け込めるよう、やわらかいイメージで演奏してください。70小節目の([L]の前にも出てきますが)和音はf mollの短3和音なので、1stはG^b音が低くならないよう気をつけてくださ

い。78、79 小節目にある 2nd、3rd は出だしをできるだけはっきり演奏してから *decresc.* しましょう。[J] の 1st の旋律は歌いやすいですがテンポを引っ張らないように気を付けてください。[K] の旋律の強弱は *f* ですが吹きすぎないように注意してください。この曲は冒頭から、トランペットパートに *ff* が記譜されている箇所は、キメや最後の部分しかないため、全体的には楽に演奏することが大切です。

◆F Horn

この曲はとても爽やかな明るい曲ですね。まず、2 小節目アウフタクトから始まる最初のフレーズは、音の跳躍がありますが滑らかに演奏して 4 小節目に向かっていきましょう。[B][F][H] は、メロディの裏で美しいオブリガードを担当しています。音楽の流れを意識して、豊かな音色でスラーを滑らかに演奏しましょう。音が跳躍するところで滑らかさやフレーズ感が失われやすいので気を付けましょう。そして、そのまま演奏するとメリハリがなくなりやすいので、強弱を工夫したりフレーズや音楽の方向性をしっかり考えて、生き生きとした演奏にしましょう。[C][D][trio][G][K] の伴奏の裏打ちはスネアに音の形を揃え、スネアに和音をつけてあげるつもりで演奏しましょう。77 小節 2 拍目からは、音程が難しいですがしっかり仕切り直し、朗々と演奏しましょう。グリッサンドは最初の音と間の音もしっかり聞こえるように演奏しましょう。

◆Trombone

冒頭 2 小節間のファンファーレは、2 分音符はアタックだけ付けたら後は楽に、3 拍目 4 拍目のリズムは息を多めに使って明瞭な音を作りましょう。3 小節目、1st と 3rd がオクターブで F の音なので音程に注意です。[A] から始まる裏打ちは音程だけ見せて響きの小さな音をあえて作ります。□の中全体を使わず、歯のすぐ手前だけで響きを作る感じです。[C] のメロディですが、22 小節目の 1 拍目と 24 小節目の 1 拍目にテンションの頂点を作り、フレーズ感を作ってください。[D] のようなハーモニーを綺麗に聞こえさせるには 1st の音をコンパクトに、3rd の音は 1st と同じ音の芯の太さで響きをたっぷりめにバランスを作ると良いでしょう。[G] のハーモニーも難しいので、49 小節目から 50 小節目に向かって小さく膨らませてから 50 小節目の *decresc.* をして下さい。[G] 後半のハーモニーと [I] のハーモニーは和声分析をしっかりと整理し、低音を頼りにして音程を取ってください。81 小節目のファンファーレ、トロンボーン 1st と 2nd のみですのではっきりと演奏しましょう。[K] からのオブリガードは 3 拍目の裏始まりですので、3、4 拍目に 8 分音符が続く 85、87、89、92、93 小節目はそれぞれ 3 拍目裏からフレーズを取り直すつもりで演奏すると音の並びがスッキリします。

◆Euphonium

2 小節目の C の伸ばしは張らずに自然に抜きましょう。[B] からのフレーズは、2・2・4 小節で取りましょう。16 小節の 1 拍目のスラーでの付点のリズムは、A の音の 16 分音符にしっかりと息を入れて、鳴りきらないうちに指を離してしまわないように気を付けましょう。17 小節目からのフレーズでは、18 小節目の下降音形で痩せないで 19 小節目の頭の D に向かうよ

うに感じましょう。[C]からのフレーズの切れ目は3拍目の頭で感じ、3拍目の裏拍が突っ込まないようにしましょう。[D]からのオブリガートはあまり吹きすぎず、[E]を経て31小節のffに持って行きましょう。[H]からは2小節、2小節その後63小節からは4小節単位でフレーズを取りますが、63小節目の3拍目E^bの音でいきなり膨れてしまうと後が続かないので楽に吹き、66小節1拍目のFに向かうようにしましょう。67小節目からのフレーズも67小節4拍目のCや68小節4拍目のFではなく、69小節3拍目のG^bに向かいましょう。[K]からの付点のリズムはスラーが付いており16分音符がタンギングで発音出来ないの指と息のタイミングを合わせ、しっかり16分音符に息を入れて音が鳴る前に指を変えてしまわないようにしましょう。85小節2拍目のDからGの跳躍はリップスラーではタイミングが合いにくいのでDの音を3番ピストンで吹くと良いでしょう。86、94小節目のリズムは16分音符と次の音符と早いタンギングでハッキリと発音するようにしましょう。

◆Tuba

冒頭、音が下降しながら進んでいきます。音符を一つ一つ吹くことにならず、4小節目のC音に向かって推進させましょう。このマーチは4拍子です。全部の音符を均等な音量で吹くと1拍子になってしまいますので、2、3、4拍目がビートの重心になる1拍目に向かっていくような意識で演奏します。その際クリアな発音も気をつけつつ、ハーモニーをよく聴きながら音程良く演奏しましょう。8小節目や32小節目のスタッカートは短くしようとし過ぎずに次の1拍目に向かってクリアに動きましょう。25小節目～28小節目の4分音符の音価（音の長さ）は8分音符を少し響かすという意識で演奏しましょう。1拍目は重心＋響きを持ち、3、4拍目は軽く演奏しましょう。75小節目から78小節目は長い音符の響きが大事です。8分音符は長い音符に向かう動きと捉え、アクセントはありますがあまりドタドタと重くならないように注意しましょう。

◆String Bass

冒頭は音が抜けないようしっかり華やかに演奏しましょう。ダイナミクスにメリハリをつけるためにも最初から頑張りすぎずに[A]からは少し楽に。ただし音の輪郭ははっきりと。ダウンでもアップでも同じ発音になるよう、特にアップの発音を意識して練習してください。[C]からはすべての音にアクセントが書かれています。全部が同じ重さ、同じ弾き方になってしまうとおもしろくないので、その中でも特にどの音に中心を持っていくのか考えながら演奏しましょう。この曲はpizz.とarcoの持ち替えにあまり余裕がありません。人数が複数いる場合は分けることも可能ですが、1人の場合だと持ち替えが間に合わないことも考えられますので、通常のpizz.の時のように弓を持たないで、普段のarcoの形のまま右手人差し指を使ってpizz.をする方法もあります。58小節目の2拍目からのarcoはアップです。持ち替え後に弓先にきちんと重さを乗せていないと弾き始めのFが揺れてしまい、きちんと鳴らないので弓のコントロールに気を付けましょう。最後のフィナーレとして[M]を大きく演奏したいところですがfです。B^b→A^b→G→G^b→Fと下降していく音をしっかり見せながらcresc.してください。

◆Percussion 1 (Snare Drum)

マーチの Snare Drum の最大ポイントは音量です。合奏のテンポキープを担う役目ですから、つつい強く叩いて合奏を引っ張らなければと思いがちですが、Snare Drum の音が他の楽器を上回る演奏は心地良いものとは言えません。Bass Drum、Crash Cymbal と連携して、あくまでも合奏を支える土台であることを忘れないでください。さて具体的なアドバイスとしては、まず音量は基本的に表記より1つ弱くすること。但し16分音符を伴うリズムはドラムというフィルインですから、8分音符の裏打ちより少し目立たせると次のフレーズへつながりやすくなります。この時、伴奏として一緒に走っているトロンボーンやホルンとずれないように正確に合わせましょう。[K]からは合奏の音量も上がりますので曲の終わりに向かって表記通りの音量で華々しく演奏しましょう。もう1点はロールを頑張らないこと。タイでつながれた長いロールは最初の1打を突いた後mfで楽にキープし、3拍目にアクセントが付かないよう打ち切りましょう。4分音符や8分音符に付けられた短いロールは力まず左右のスティックが一打でできるだけ沢山バウンドするように練習しましょう。最後に、8分音符の裏打ちは休符をウンと捉えてしまうと遅れていくので、8ビートを感じて叩きましょう。メトロノームを8分音符で鳴らしながら練習すると良いでしょう。

◆Percussion 2 (Bass Drum)

マレットは、音の粒がきちんとクリアになる少し小さめの物を選択すると良いでしょう。この曲では、ビート感がとても大切となりますので、拍頭にきちんと重さを感じる事が重要です。そして、楽譜に書いてある強弱記号を忠実に守り演奏するようにしましょう。特にmfとmpの差を付けて演奏出来ると良いですね！[I]等に出てくる2分音符後のテンポが遅れないように気をつけ、音色もクリアに演奏をしましょう。特に伸ばした後の1拍目の音色は、重要となります。

◆Percussion 3 (Crash Cymbals)

最初から元気よくいきたいところですがffではなくfなので軽やかに演奏しましょう。81小節目ではどうしても3、4拍目で走りがちなので、8分音符ごとに重量を増すイメージで演奏すると安定します。[I]からは冒頭と同様に、あくまでもfなのを忘れないようにしましょう。[L]の直前で少しだけCymbalの振動を止めるとmpが出しやすくなります。

◆Percussion 4 (Glockenspiel)

16節目や36節目は、1～3拍と4拍目からのメロディをはっきりと分けて捉えましょう。[I]からの音量はf表記ですが、mfぐらいを意識して、楽に演奏しましょう。全体的にフルートパートと動きが同じなので、タイミングがずれないように意識しましょう。合奏練習とは別に、フルート奏者と個別に練習すると、フレーズ感や息遣い等がよく解ると思います。